

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホーム ちゃたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町宮城1番793		
自己評価作成日	平成 25年12月16日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人らしく落ち着いて生活できるように努めている。また、毎日レク活動等を取り入れて、利用者様に張り合いや楽しみをもって気分転換がはかれるように努めている。掃除や洗濯など、本人が出来ることを行ってもらい、役割を持って生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設された法人デイサービスと小規模多機能事業所と協力し、火災を想定した実践的な避難訓練以外に津波を想定した訓練も実施している。法人の管理栄養士が作成した献立を昼食以外はホーム内で調理することで温かい食事を提供し、職員も一緒に席につき会話しながら同じ食事を取り、ほとんどの入居者が完食している。昼夜ともおむつにせずトイレで排泄ができるよう支援し、入居者毎の状況に応じ自立に向けて取り組んでいる。研修計画に基づき継続した職員研修を行い理念に掲げる人材育成に力を入れている。ホールや居室に空気清浄機等を整備して感染症予防に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年2月26日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、地域密着サービス独自の理念を作り、職員で共有している。入職時のオリエンテーションなどに、理念を資料として渡している。	法人の理念を踏まえて併設する小規模多機能事業所と同様の理念を掲げている。理念の文章が長くなっており日常的に職員間で内容を確認する機会が得られていない。入職時オリエンテーション以外に理念に立ち戻る機会は少ない。本日の調査を通して人材育成の理念に基づき継続的な教育研修が実践されていることが確認できた。	地域密着型サービス事業所として目指す方向を職員間で話し合い、日々直面する入居者との葛藤場面で自分達の仕事の原点として立ち戻ることのできる理念を作成されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	読み聞かせのボランティアや、踊りのボランティアなど、地域で活躍しているボランティアの方々を招き入れている。近隣の保育園のイベントなどへ参加させてもらっている。	自治会には加入していないが地域福祉まつり等近隣の行事に参加している。地域のボランティアの慰問を受け入れている(踊り等)。併設する小規模多機能事業所の利用者と交流する機会があるが入居者自身が地域住民との交流する場面は見られない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々へ活かし切れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催。運営推進会議でアドバイスをいただき、その内容を、職員へ伝達し、実践に向けて取り組んでいる。	開設以降2か月に1回定期的に会議が開催されているが、入居者の参加は見られない。現在小規模とグループホームと同一日に開催しているが、それぞれ異なる時間帯で実施している。事前の通知及び議事録は文書で各委員に送付及び手交している。災害対策や事故報告に対する意見が委員から提起されている。	普段の暮らしぶりを直接伝えてもらい、当事者としての思いや希望を提案してもらう機会として、今後は入居者本人も会議へ参加していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員に役場の職員も入っており、会議の際に実情等を報告して周知に努めている。	介護認定更新時に入居者と一緒に市町村の窓口に出かけている。運営推進会議以外に市町村担当者及び地域包括支援センター職員と情報交換する機会は見られない。これまで事業所側から市町村に対して支援困難事例等の相談はあげられていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをに取り組んでおり、身体拘束を行っている利用者はいない。身体拘束廃止についての勉強会を実施している。玄関について、夜間に関しては防犯のため施錠を行っている。	研修計画に基づき身体拘束の勉強会を職員全員で実施している。夕方以降事業所から外へ出かけようとする入居者が複数見られることから、常時2階出入り口と外階段の柵は鍵をかけている。職員の見守り体制のある時には一緒に外に出かけて気分転換を図っている。家族に対しては事業所として身体拘束できないことを文書及び口頭で説明している。	事業所内の共有空間に基礎構造の太い柱が立っている。この柱が日常業務に大きな支障をきたし鍵をかける状態が続いていると考えられることから、入居者が安全安心に暮らしていけるよう早急な対策が望まれる。

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、勉強会をもち、理解に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に説明を行い、納得の上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望等は申し送りノートに記載して、職員間で共有に努めている。今後は利用者へのアンケート等も取り組んで行く予定。	入居者の思いや意見は日常の生活場面で聞き取っている。家族からの苦情を受けて、職員と家族が密に情報を交換して信頼関係が築けるよう現在担当制となっている。サービス担当者会議において自宅を訪問して家族と面談する機会も設けている。家族会等現在家族同志が交流する機会は見られない。今後家族アンケートの実施を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議などで、職員の声を聞き、反映させるように努めている。	毎月開催している職員会議で、職員から業務内容や入居者に対する意見が提起されている。職員全員で話し合い、確実に業務を遂行できるよう、プラスチックボードの確認票にマジックでチェックを入れ、日々書いては消す仕組みを導入した。最近退職者が2名見られたことから、現在管理者が個別に職員と面談を行い職員の意見の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望や有給休暇など、出来る限り職員の要望に添うように対応している。研修など、出来る範囲で参加させて、個々のスキルアップにつながるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員主体となった勉強会の実施や、施設外での研修への参加など、職員の育成に努めている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者へ電話したり、訪問したりして交流を持ち、情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接を行い、不安や要望等を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面接を行い、不安や要望等を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に情報収集をするように努め、どのように対応して行ったらよいか、またその他のサービスの必要性があるかを検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の居室を一緒に掃除したり、片付けたりと、介護されるだけではなく、自分のことは自分で行ってもらうように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時に相談したり、電話などで相談や情報交換を行っており、家族も一緒になってケアをしていくという意識で動いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のミニデイへの参加や、ドライブでなじみの場所へ出かけるなど行っている。なじみの人との関係継続の支援はまだ行えていない。	もともと地元出身でないため馴染みの人や場所との繋がりが途絶えてしまっている入居者がおり、これまで本人が積み上げてきた暮らしぶりの情報を把握するのが難しい状況にある。地元出身の入居者にはドライブを兼ねて自宅を訪問する機会を設けているが、近隣の馴染みの人との交流は見られない。	

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考えて座席の配置等を検討。仲の良い利用者は隣同士にするなど心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者によって、退居後も連絡を取って、相談事があれば話を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度利用者へ声かけし、意向を確認するように努めている。困難な場合はご家族からの意見や、職員が観察したうえで、意向を決定するように努めている。	入居者が外に出ようとする時には職員体制を考慮して出来る限り本人の意向に沿って一緒に散歩に出かけている。好きな食べ物や希望する買い物等は日頃から聞き取っているが、ホームでの暮らしぶりに対する本人の意向についてはまだ把握していない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前などに本人の生活歴や趣味などを聞き取っており、極力グループホームでの生活に取り入れていくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族から自宅での暮らしを伺ったり、普段の様子を観察したりして、本人になった過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所の会議において、その方の課題やケア方法などを話し合い、プランに反映させるようにしている。	入居者の状況を踏まえて随時介護計画の見直しは行われているが、開設以降個別のモニタリングは実施されていない。担当者会議に利用者及び家族以外に担当職員も参加して意見を提案している。入居者の生活情報に関するアセスメントは定期的に実施されていない。	利用者の現状に即した介護計画を作成するためにも、個別のモニタリングとアセスメントを繰り返し実施することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人個人でケース記録を付け、日々の様子や状態が把握出来るように努めている。申し送り簿等で、職員間の情報共有を図っている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状況に応じて、柔軟な対応を心がけているが、既存のサービス以外を活用するまでには至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用していたかかりつけ医をそのまま利用していただくようにしており、必要に応じて情報提供を行っている。	入居前からのかかりつけ医を入居者全員が継続していて、家族対応で受診をしている。状態の変化の無い時には、入居者の状態を口頭で家族に説明し、発熱等非日常の場合には、家族に書面にて詳細を説明している。認知症専門医を受診する入居者もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置は無く訪問看護を利用する方もいないため、病院受診の際に、病院の看護師などに情報提供する程度。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、定期的に面会や家族へ状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては、看護職員も配置していないため、基本的に受け入れ出来ない旨を家族へ説明している。	入居者、家族へは、胃ろう増設や吸引等の医療行為が必要になった時は対応できない旨、契約時に口頭で説明している。事業所として重度化や終末期に向けた方針は明文化されておらず、家族との繰り返しの話し合いはされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など勉強会を開催して、備えている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に実施。沖縄県主催の津波避難訓練にも参加し、防災についての意識を高めている。今後は地域との協力体制を築いていくことが課題。	併設されたデイサービス、小規模多機能事業所と合同で消防署立会いの下、昼夜を想定した火災総合訓練を年3回実施している。近隣住民にも訓練参加の声をしているが、参加は得られていない。津波避難訓練では、2階の事業所から外階段を利用して車いすを下し避難指定ビルの屋上に手で車いすを上げる訓練をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時など、プライバシーに配慮してケアにあたっている。声かけについても人格を尊重した対応を心がけている。	入居者を呼ぶ時には名前呼び、要望に対して否定しない対応を取るようにしている。入居者それぞれの生活リズムで、朝食を遅い時間に取りられる方や部屋で食べたい等、個人を尊重し支援をしている。廊下の掃き掃除、テーブル拭き、車いす利用でシンク掃除等の役割があり、入居者が誇りを持てるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分で決定できるような声かけを行い、自己決定の機会を持てるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度希望を聞いて支援をするように努めている。入浴時間や入眠、起床時間など、本人の希望に合わせて対応している。趣味など、本人の好む活動も把握するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等を行う際に本人に聞いて、決めてもらっている。自分で決定出来ない場合は、その時々に合わせて、ふさわしい身だしなみが出るように職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間の直前に提供するようにして、温かい食事が摂れるようにしている。本人の好き嫌い、味付けの具合などにも対応するようにしている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、バランスのとれた食事メニューを提供している。昼食は複合施設厨房で作成し、朝食、夕食は事業所で職員が作成している。好みに応じて薄味、柔らかくする等変更して、職員も食卓を囲み、同じものを食している。最後まで時間をかけて食べる入居者や自室で食事を楽しむ方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは母体の管理栄養士によって作成されており、カロリーなどの栄養状態のバランスについては十分に計算されている。水分や摂取量については日々観察しており、その方に合わせて支援している。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように心がけている。自分で行える方は自分で行ってもらうように声かけている。歯ブラシ、義歯洗浄、ガーゼでの拭き取りなど、個人個人に合わせてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるベトイレでの排泄を行ってもらうように働きかけている。夜間はおむつ対応し、睡眠を取ってもらうなど、個人個人に合わせて対応している。	全介助の入居者を除き、日中はリハビリパンツや布パンツで過ごし、トイレでの排泄を支援している。リハビリパンツで過ごす入居者には皮膚疾患の予防や清潔保持のため、下半身浴を行っている。夜間頻回にトイレに行かれる方には、部屋を近くに作る等、個人の状況に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように常に水分摂取を促し、便秘の予防に努めている。日常での体操やレクリエーションなどで体を動かす機会をもつなどして便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人個人にあった入浴方法や洗髪方法などを把握し、本人に確認しながら入浴支援を行っている。基本的な入浴の日時は決めているが、本人の希望にそって行うようにしている。	週2回以上の入浴を基本に、1日3名から4名入浴している。入居者の状況に応じて、介助の必要なところを支援し、自分でできることは見守りをしている。浴室には浴槽もあるが、現在は希望する方はなくシャワー浴である。冬の寒い時には脱衣所にヒーターを置き、温度差に配慮している。こだわりのシャンプーを持ち込んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間などは本人が希望する時間で決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬の説明書をカルテにファイリングし、各職員が薬の内容を把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや手工芸、パズル、将棋など本人が好む活動を行っている。ドライブや散歩など、皆で楽しむ活動も取り入れている。本人の役割として、部屋の掃除や洗濯物の取り入れなどおこなってもらっている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのデパートなど、本人の希望があれば、一緒に買い物に出かけたりしている。時々遠い場所へもドライブに行くなどして、	ベランダに出て外気に触れ、隣接する公園で遊ぶ子供たちに声をかけたり、公園まで散歩に出かけている。浜うり、読谷にあるお土産物屋さんまでドライブし、アイスクリームを食べに行くこともある。入居者の「てんぶらが食べたい」の声に、利用者と一緒にスーパーに買いに出かける等、個別の支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などへ出かける際に、ご家族から小遣いを預かり、本人に支払っていただくなどして、金銭のやり取りも実際に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るような飾り付けをその都度行っている。各居室、ホールにエアコン、空気清浄機を設置しており、温度や湿度の管理は行えて居る。	空気清浄器が設置され、感染症予防に配慮している。居間にはテレビが入るリビングボード、洗面所の脇などに収納があり、物品が整理整頓されている。ベランダから日差しが入り明るい、居間の真中に柱があり、天井から大きなミラー(曲面鏡)を取り付け死角を減らすよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭いため、1人になれる場所は居室以外に無いといった状況。利用者同士の相性を考え、席を配置するなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好むもの、使い慣れているものを持ち込んでもらうようにご家族へ声かけしている。実際に自宅で使用していたタンスを持ち込んでいる方もいる。	各居室には、ベッド、たんす、テレビ、空気清浄器が備え付けられている。壁の上部に棚があり、衛生用品の予備や衣替えをした洋服などを置けるようになっている。入居者の生活動線を考えベッドの配置に気を配り、居心地良く過ごせるようにしている。友人の形見の三線を置いている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識を大きく表示することで、トイレの場所が自分で把握でき、自力で排泄が出来るようにしている。		